

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふりがな 氏 名	あらい よしこ 新居 佳子
(研究テーマ名) 都市における因果推論の理論的解明および国際二都市間連携による大学教育の評価	
(研究活動実績) <p>人間の因果推論に及ぼす自我関与の効果が効用理論によって説明可能であることを、心理学実験により示した。この成果を、大学院文学研究科インターナショナルスクール (IS)・心理学教室共催の国際的学術交流ワークショップ¹⁾および学会²⁾にて発表した。また、日本学術振興会二国間交流事業 CHORUS プログラム「真と偽を超えて—確信の度合い」(日本側代表者：山祐嗣)の日本側参加者および科研費「低コンテキスト・高コンテキストという区別からみた認識・表現の比較文化研究」(代表者：山祐嗣)の研究協力者として、研究会発表を行った³⁾⁴⁾。</p> <p>これに加え、大阪大学サンフランシスコ教育研究センター(OUSFC)に協力し、OUSFC 実施の遠隔講義(同大学全学教育推進機構と連携)の受講効果を実証し、学術雑誌に公開した⁵⁾。</p> <p>1) <u>Arai, Y.</u> (2013). Utility and ego-involvement and in causal inference. The 1st IS Seminar/OCU International Psychology Workshop on Inference. Osaka City University, October 23.</p> <p>2) <u>新居佳子</u> (2013). A explanation of the effect of ego-involvement on causal inference by utility: Current progress and future plan. 日本学術振興会 二国間交流事業共同研究/セミナー 2011-2013 CHORUS 研究プロジェクト(日本チーム) BTAF 第2回研究会 2013年10月27日 立命館大学</p> <p>3) <u>新居佳子</u>・山祐嗣(2013). 因果帰納における自我関与と効用 関西心理学会第125回大会発表論文集, 37.</p> <p>4) <u>Arai, Y.</u> (2014). A explanation of the effect of ego-involvement on causal inference by utility. The First International Tokyo Workshop on Intelligence and Cognition. JIYU GAKUEN MYONICHIKAN, March 19 (予定) .</p> <p>5) 松河秀哉・<u>新居佳子</u>・岩居弘樹・久保井亮一・紺野佳子(2014). 国際間遠隔授業の効果に関する研究—海外志向性と同一性及びグローバル人材としての態度の観点から— 大阪大学高等教育研究第2号(印刷中)</p>	